

遊びを深めて概念を育てる

～「かずの概念」と「植物（やさい）の概念」～

第1分科会

明晴学園（明晴プレスクールめだか） 池田 亜希子

【概要】明晴学園では、併設している児童発達支援事業所「明晴プレスクールめだか」が乳児クラス（0歳児から2歳児）を担っている。現在の登録数は15名、子どもたちは平均で週2回程度通ってくる。一日の流れは、自由遊び、課題遊び、食事指導、帰りの会などで構成され、必要に応じて個別指導を行う。指導員は、ろう者（日本手話ネイティブ）またはろう児を手話で育てた聴者の親で、いずれも当事者であるためろう児に対する理解と期待値は高い。主な活動は、ろう児の思考スタイルに合ったアプローチを基本に年齢や発達に応じた遊びを深めることで概念と言語を育てている。本発表では「かずの概念」と「植物（やさい）の概念」を例に具体的な指導方法を紹介する。

【キーワード】乳幼児教育 母語習得 概念形成 家庭支援 当事者の視点 ろう児の思考スタイル
日本手話の文法 児童発達支援

1 はじめに

明晴プレスクールめだか（以下、「めだか」という。）では、従来の乳幼児教育相談という域を脱し、母語習得と概念形成を目的とした乳幼児教育と家庭支援を含んだ教育プログラムを実施している。ろう児の思考スタイルに合った視覚的アプローチと環境を整えれば、聴児と同様に「ことばと概念」を育てることができる。それを可能にしているのが「遊びを深める」指導法である。ひとつひとつの遊びをねらいを変えながら数回に渡って深めていく。ここで注意すべきは、単に手話を使えば良いということではない。ろう児の発達と思考スタイルに合ったアプローチ（話し方や話す順番）が最も重要である。視覚で情報を得るろう児（者）は、聞こえる人の考え方や方法とは異なる思考スタイルをもっている。めだかでは指導者が当事者であることから適切なアプローチが無理なく実現できる。さらに、保護者と情報を共有するために、教室の入り口にその日の遊びのねらいがわかる活動表を貼り、活動終了時には振り返りと解説を行うなどして家庭支援につなげている。

2 乳児期のろう児への適切なアプローチ

（1）ろう児の思考にアクセスできる手話

乳児期のろう児に手話の単語を並べて話しかけることは効果的とはいえない。「いぬ」や「ねこ」という手話単語ではなく、見てわかる形や動き、特徴を表現することで、さまざまな動物の違いや仲間を理解できるようになる。このとき用いるのが、日本手話の文法要素であるNMとCLである。これらの文法要素をいくつか組み合わせて同時に表現することで、ろう児は指導者の意図を理解していく。以下に日本手話の文法要素を簡単に記す。

手指標識	手や指で表すもの/手話単語
NM	Non-Manuals/目や眉、顎や肩など手や指以外の身体部分で表現するもの
CL	Classifier/ものの動きや形などを表現するもの
RS	referential-shift/指示対象や物語の視点によって語り方が変わる標識

表1 「日本手話の文法要素」

（2）「かずの概念」を育てる

日常の遊びや会話の中で「かずや数字」はごく自然に登場する。日本手話の文法要素であるCL表現は、「かずの概念」を理解するのに大きく役立つ。ビデオに登場する2歳児の女兒に指導者が「2個のおかずを1個食べたら残りは1個」という語りかけをしている。このとき、おかずの1個を落とした女兒は、「2個のおかず、1個落ちたから残りは1個」とかずの理解を見せた。また、ピックに刺さったおかずの半分を食べながら「半分食べる」と量の理解も表している。CLという視覚情報がかずの認識と思考を助けている。このように、日常の会話や遊びによって、さまざまな概念を育てていくことができる。

3 遊びを深める

（1）「植物（やさい）の概念」を育てる

課題遊びは、遊びの手順や楽しみ方などの説明からはじまる。乳児期に合わせたNMとCLを使った話し方により、ほとんどの乳児が内容を理解することができる。ろう児（者）の思考スタイルに合わせて事前に詳細な説明を行う。これがないと、ろう児の思考がはじまらず、その場だけの真似に終始し遊びのねらいや活動の効果は期待でき

ない。「植物（やさい）の概念」を育てる遊びは5段階で構成され、それぞれ2回程度の体験を繰り返す。単発ではなく遊びを重ねることで探求心や探索心が広がり、生活で体験するであろう活動を取り入れて家庭支援（表2⑥）につなげる。以下に、模造紙で作った畑で収穫する遊びの階層を記す。

① 作り物のサツマイモを収穫する（11月）
② 作り物のジャガイモを収穫する（11月）
③ 作り物と本物が混在する畑で収穫（11月）
④ 芋版を作る（11月）
⑤ 数種類の野菜で買い物ごっこをする（2月）
⑥ 遊びを日常生活で体験する（家庭）

表2「植物（やさい）の概念を育てる遊びの階層」

（2）子どもの姿

①サツマイモは1本のつるでたくさん収穫できる。葉の大きさとイモの大きさの関係や形がふぞろいであることなどを発見し、友だちと一緒につるを引っぱって楽しむ様子が見られた。②ジャガイモはサツマイモと違い、束のようにぶら下がっていることを知り、持ちやすいことからジャガイモだけを掘り続ける子もいた。ジャガイモの形は単調で、イモのつくりが違うことに疑問をもち指導者に質問していた。③多くの子が本物を好んで掘るが、運ぶときの重さを知って軽い野菜（大根よりかぶ等）を選んだり、運び方を工夫するなどしていた。本物と作り物を比較し、皮の存在や感触、匂いを知り、それを表現するNMやCLを自然に習得していた。④2種類のイモの硬さや断面（切り口）、持ちやすさや絵の具の移り具合の違いを発見し、芋版に適したものを子ども自身が気づいて選んでいた。⑤お店の値札を工夫してお金と同じイラストを使った。金額の概念はまだ難しい年齢だが、ろう児に合った視覚的工夫によって値札の上にお金を並べるなどして保護者の手を借りず自分で買い物をする様子が見られた。

（3）結果と考察

子どもの姿から見てとれることをまとめたい。2種類のイモの違いを区別させたことで、イモのつくりや掘り方、持つ方法など一連の違いに気づくことができた。それぞれの子どもの好みやこだわりが見え、友だちの存在を意識しながら遊んでいることが分かる。自ら遊びを作り出すなど、遊びや思考を深めていく姿も多く見られた。同じ遊びを継続的に繰り返すことで、「偶然の気付き」から「関係づけの気付き」につながり、探求心や探索心が育ち、買い物ごっこへと展開させることが

出来た。このとき指導者は、子ども同士のあそびが動き出す瞬間を見逃さず、その遊びが展開するよう場面に応じたヒントを出しながら、子どものやりたいという気持ちが膨らむよう支援した。



図1 焼き芋の見立て遊びを楽しむ様子

4 まとめ

今年3月、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため一か月ほど休業を強いられた。そこで、ろう乳児の言語環境を少しでも守るため、テレビ電話（zoom）によるオンライン家庭支援と手話動画の配信を行った。乳児にオンラインが適切とは思わないが、1回30分ほどの支援でさまざまな遊びや日本手話の絵本読み、歯ブラシなどの生活習慣指導を行ったところ、想像以上の効果を得ることができた。ここでも、ろう児の思考スタイルに合った丁寧なアプローチが効果を発揮したといえる。めだかでは、子どもが「遊ばされている」環境を作らない。遊びの成果や結果に捉われず、過程やプロセスを重視している。指導者は子どもの状態や場面に合わせて具体的なことばをかけ、遊びや思考を深めていく。日本手話という共通言語によって教室全体が見て分かる言語環境になると、子ども同士のかかわりがはじまり、子ども自身が遊びを作り出していく。指導者は、遊びや活動のねらいと適切なアプローチを常に意識し、それを保護者と共有することが、ろう乳児のことばと概念を育てる上で最も大切だと考える。

【参考文献】

- 1) 高浜介二、秋葉英則、横田昌子（監修）（2004），『2歳児の保育一年齢別保育講座』ルック
- 2) 四日市章／鄭仁豪／澤隆史／ハリイ・クノールス／マーク・マーシャーク（編）（2018）『障害児の学習と指導～発達と心理学的基礎』明石書店

0歳児から2歳児の「かずと数字の概念」を育てる

明晴学園に併設している児童発達支援事業所「明晴プレスクールめだか」では、0歳児から2歳児のろう乳児への教育と保護者の支援を行っている。一日の流れは「自由遊び」「午前の課題遊び」「食事指導(お昼のお弁当)」「午後の課題遊び」「お茶の時間」「帰りの会」で構成され、必要に応じて30分程度の個別指導を行う。指導員は、ろう者(日本手話ネイティブ)またはろう児を手話で育てた聴者の親で、いずれも当事者である。このため、指導員のろう乳児に対する理解と期待値は一般に比べて高い。本研究テーマの「論理的思考を育む算数・数学活動」もそのひとつで、0歳児から2歳児が対象であっても、日常の遊びや会話の中で思考を育てる「かずや数字」がごく自然に登場する。このとき、日本手話の文法要素であるCL表現(ものの動きや形などを表現するもの)が「かずの概念」を理解するのに大きく役立つ。ここでは、教材を使った方法と日常生活におけるかずと数字の表し方の例を紹介する。

1. 日本手話で表すろう乳児に合ったかずの教え方

日本手話には、手指標識(手や指で表すもの)、CL(Classifier/ものの動きや形などを表現するもの)、RS(referential-shift/指示対象や物語の視点が変わる標識)、NM(Non-Manuals/目や眉、顎や肩など手や指以外の身体部分で表現するもの)などの文法要素があり、いくつかを組み合わせて同時に表現する言語である。手指標識が数字の「1」であっても、他の要素によって「教え方」にバリエーションが生まれる。かずの概念が未発達のろう乳児に対する「かずの教え方(見せ方)」と、理解しはじめたときの見せ方、そして、かずや数字の概念を深めるための表現方法は異なる。以下の写真①~③は、目と手の協応や認知の発達に応じた表し方の一例である。



写真①
対象物にかずの指文字をつけて数える
※教え方は写真⑩⑪⑫参照



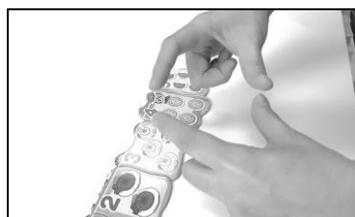
写真②
・右手で対象物を指差しし、次に左手で数える(逐次表出)
・指差し後に左手を見てかずの手話を表す(視線の移動/確認作業)



写真③
・右手で対象物を指差ししながら左手で数える(同時表出)
・かずの概念を理解しているため視線は右手のまま

2. 教材を使って「かずと数字の概念」を育てる

めだかで使用している教材には、オリジナルと市販の教材がある。ここでは、個別指導でよく使う市販のパズルを例に「かずの表し方」を紹介する。かずや数字の理解がまだできていないろう乳児については、ピースの絵をCLで表現し「かずの理解」の導入を行う。以下の写真④はピースの絵(ひと皿)を皿のかずと位置に合わせて移動するCLとNMで表現する。移動がないと「3」というかずを理解しにくい。4または5以上は「たくさんの」のCL表現を使う。かずに興味をもちはじめた子どもにはかずの指文字を使い、対象物との距離や表し方を少しずつ大人の表現に近づけていく。



写真④
「かずの表し方」絵に合わせたCLでかずの理解につなげる



写真⑤
「数字の表し方」数字に注目する場合、左手で数字を指差し、その手に右手をつけてかずの指文字を表す

3. 生活の中で「かずと数字の概念」を育てる

日本手話の文法要素であるCLや指さし(PT)によって、ろう乳児との会話の中でごく自然に「かずや数字」を使うことができる。例えば、教室移動をするときの点呼で、指導員が子どもひとりずつに指さしで「指さし/指さし/指さし/3人」と表現したり、ひとりひとりに「1(指文字)/2/3/3人」と表現することもある。ろう乳児に対して、かずや数字を教えるのではなく、保護者が生活の中で自然に使えるよう指導するのめだかの役割である。更に、0歳児や1歳児には直接アプローチするだけでなく、2歳児や他の友だちがかずや数字を使って遊んでいる場面を見せることも重要であり、めだかでは子ども自身がかずや数字(数量や図形など)に興味や関心を持ち、その感覚が養われるような環境設定の工夫を心がけている。

3-1. 食事指導の場面(かずの数え方)

めだかでは、お弁当を持参し全員で昼食をとるが、食事指導を希望する保護者が多い。食べ方や食事のマナー、好き嫌い、食べ残しなど、ろう乳児の様子や保護者の悩みに応じてさまざまな指導を行う。以下の写真⑥⑦⑧は、3個のおかずが入ったお弁当の食事指導で、おかずを1個ずつ食べ切ることを「かずと量」で表し、完食を促しているものである。なお、ゼロという指文字の理解は難しいため、グーの手型を用いてゼロの概念を育てる。



写真⑥
3本の指を3個のおかずに見立て、1個を食べる様子



写真⑦
1個を食べた様子



写真⑧
折れている指は半分を意味する同時にNMで「(完食)まだ」を出す

3-2. 誕生会の場面(数字の数え方)

一般的に3歳になると自分の年齢を言うことができる。ろう乳児も正しいアプローチをすれば、聞こえる子と同じように成長する。ただし「3歳」と言えるだけでは、3歳を理解したことにはならない。3年という長い時間の概念を育てる必要がある。右の写真⑨は、2歳から3歳までの1年間の時間の長さを表した手話表現で、左手の薬指(3本目の指)を右手でゆっくり立てると同時にNMの目とほほのふくらみ、あごの動きで「長い1年間」を表している。



写真⑨「数字の表わし方」
1年の長さをNMで表現

4. おわりに ~ろう児の思考スタイルに合ったアプローチが重要~

ろう児は視覚で情報を得るため、聞こえる人の考え方や方法とは異なる思考スタイルを持っている。例えば、兄弟喧嘩を注意するとき、聴者は「お兄さんだから」という言い方をするが、こうした抽象的な言葉はろう児に合わない。「あなたは3歳、この子は2歳~」と具体的に伝える。ろう乳児の場合は、CL(背が高い・背が低い/歩く・ハイハイ)で年齢の差を表すことからはじめ、かずや数字の概念が発達してくると「お兄さんだから」と言えば理解できる。また、遊びをやめないときに「1」からはじまり「10」で終わる指文字を出すことがあるが、0歳児でもこの意味を理解できる場合がある。このとき、NMは出さず無表情で、数字の指文字をリズムをもって出すことが大切で、そこから「10までに遊びを終わる必要がある」という意図を察することができる。このように、ろう児に合ったアプローチであれば、0歳児から「かずと数字の概念」は育っていくのである。

※対象物に指をつけて数える方法(1から3まで)

写真⑩



写真⑪



写真⑫



聞こえない・聞こえにくい

赤ちゃんの育て方



児童発達支援事業所

明晴プレスクールめだか

ろう児という呼び方

めだかでは、聞こえない・聞こえにくいお子さんを**ろう児**と呼んでいます。これには、**聴力に関係なく「生きるための、見る力をもって生まれた子ども」**という肯定的な意味が含まれています。めだかの職員は、「ろう者」と「ろう児を育てた聞こえる親」です。当事者としてのアドバイスや同じ子育ての経験から、ご家族が**ろう児の特徴**を知って楽しい子育てができるようお手伝いします。どんな小さなことでも気軽に相談してください。

もくじ

聞こえない・聞こえにくい赤ちゃんの力	3
ろう児を育てるということ	4
視線をあわせる	
ろう児の視界	5
ことばのはじまり	6
めだかの保護者支援	8
コミュニケーションのポイント	9
生活の中で伝える場面	10
めだかの活動	11
教材	12
おすすめ図書・論文	13

聞こえない・聞こえにくい赤ちゃんの力

聞こえない・聞こえにくい赤ちゃんは、生まれたときから目で情報を取り込む力をもっています。その力は、赤ちゃんが自分の命を守り、心を育て、成長しつづけるために欠かせない“**生きる力**”です。両親がろう者で手話で生活しているデフファミリーの場合、ろうの赤ちゃんでも聞こえる赤ちゃんと同じように育ちます。それは、ろうの両親が赤ちゃんの見る力を知っているからです。聞こえるお父さんやお母さんは、赤ちゃんが聞こえにくいと診断されて戸惑っていると思いますが、赤ちゃんの**見る力**を活用すれば、親子の愛着関係を築くことができます。

この冊子では、聞こえにくい赤ちゃんの特徴や接し方を紹介します。赤ちゃんが見る力によって多くの情報を得ることができれば、いずれ補聴器や人工内耳をしても足りない部分を補えるようになります。いま大切なことは、**聞こえ**や**ことば**だけにとらわれず、聞こえにくい赤ちゃんがわかる方法で、お父さん・お母さんがおおらかに**子育てを楽しむ**ことです。難しく考えず、まずは、赤ちゃんの特徴を理解して、新たな子育てに挑戦してみましよう。

ろう児を育てるということ

子育ての考え方を「聞こえない子を育てる」から「**目の子を育てる**」に代えてみると、いますぐ家庭でできることがたくさん見えてきます。それはとても些細なことで、誰にでもできますが、教えてもらわないと気づかないことでもあります。では、小さなことから見つけて行きましょう。

ろう児は生まれたときから目で情報を集めています。これは生命にかかわる大切な行動です。自分のそばに誰がいるのか、どんな表情をしているのか、何が近づいてきたのか。ろう児は見ることで周囲の状況を判断します。

視線をあわせる

赤ちゃんに接するときが一番大切なのが**視線をあわせる**ことです。別の方向を向いているときは、肩や胸あたりをやさしくトントントンと叩いて気づかせ、視線を合わせましょう。その後で、抱っこしたり、ミルクをあげたり、おむつを替えたり、着替えをすることを伝えてから行動します。



ろうの赤ちゃんにとって「**見えないコト（もの）は、ないコトと同じ**」です。後ろから抱っこしたり、視線を合わせずおむつ替えをはじめると、「突然、何かが起きた」ことになります。聞こえる子は、わずかな物音でも事前情報になりますが、ろう児にはわかりません。赤ちゃんが安心して生活できるように、視線を合わせる子育てを心がけましょう。



ろう児の視界

めだかに通うろうの赤ちゃんのほとんどが、びっくりするよ
うな反り返りをします。病院で相談すると「反り返りが多いと

疑われる病気に脳性まひや発達障害、自閉症がある」と言われ不安になる方も多いと思いますが、ろうの赤ちゃんは、見るために反り返ります。ぜひ、**お子さんの後ろから周囲を見まわしてください**。そこにはどんな世界があるのでしょうか。



ことばのはじまり

ことばの土台は、音声や指文字の「あ・い・う・え・お」ではありません。赤ちゃんとお母さんやお父さんが気持ちを通わせ、**伝わる経験と共感の積み重ね**が『ことばの土台』になります。その基本となるのが視線です。ろう児もろう者も、**目をあわせることからコミュニケーションがはじまります**。逆に、目を合わせずにコミュニケーションすることはできません。聞こえる人の中には目を合わすことが苦手な人もいますが、お子さんとは、しっかり目を合わせてあげてください。

ろうの赤ちゃんと気持ちを伝え合うために、一番大切なのが表情です。でも、嬉しい顔、悲しい顔、怒った顔という抽象的な表現ではすぐに限界が来てしまいます。ここで効果的なのが、日本手話の手にあられない非手指要素「NM (Non-Manual)」と呼ばれる文法で、**目の開き方や眉の位置、うなずき、首振り**などです。他にも、**指さし「PT(Pointing)」**もたくさん使います。

お母さんやお父さんの**ことばかけ**が多いほど、赤ちゃんのことばの発達も早くなります。デフファミリーの場合、生後4ヵ月頃から手話の喃語が出はじめ、早い子では8ヵ月頃には手話単語（幼児語）を話しはじめます。

ろう児の言語発達

デフファミリー

視線をあわせる

(コミュニケーションの基本)

要求 (NM)

生後4～5カ月

喃語 (手話の喃語)

生後8カ月

幼児語 (赤ちゃん手話)



ろう児の発語は、主に NM、PT、CL、RS の順で現れます。聞こえる子は名詞からですが、ろう児は動詞から話しはじめます。

- NM : (Non-Manual) 手以外で表わされる手話の表現。目の開き方や眉の位置、うなずき、首振りなどで文法を表わす。
- PT : (Pointing) 指さし。人称 (私、あなた、彼) や指示代名詞を表わす。
- CL : (Classifier) 物の位置や動き、形などを表わす手話の表現。
- RS : (Referential Shift) 手話の話者が一人で複数の話し手の役割を担う表現。

めだかの保護者支援

めだかでは、お子さんの言語発達を支援するだけでなく、お子さんとご家族のコミュニケーション支援にも力を入れています。聞こえるご家族の場合は、ろうのお子さんへのことばかけの方法やお子さんの要求や喃語、幼児手話をご家族に解説し、デフファミリーには、コミュニケーションにストレスのない手話環境で子育てや早期教育の情報を提供します。

- ・ お子さんの視線の先にある情報の伝え方。
- ・ 発達に合わせた視線の使い方。（共同注視と共同注意）
- ・ お子さんの意思や要求（NM、PT、CL など）の代弁。
- ・ 手話喃語や幼児語などの言語発達の解説。
- ・ ことばと行動が一致する。表現しやすい手話（手型）を使ったことばかけの方法。

（例）「たくさん／首振り（ダメ）／少し」

- ・ お子さんがイメージできるような話し方。
- ・ NM や PT や CL を使った注意の仕方や褒め方。
- ・ お子さんの気持ちを表現しやすい手話で言語化する。
- ・ お子さんがイエス・ノーで答えやすい具体的な話し方。
- ・ 手話の語彙と日本語の語彙の違いやその使い方。
- ・ その他（ロールモデル、論文、海外情報の紹介など）

コミュニケーションのポイント

ろう児がわかりやすい「ことばかけ」の例をご紹介します。

- バリエーション（NMの使い分けを学びましょう）
 - ・褒めるとき・叱るとき、注意の仕方、確認の方法など。
- ローコンテキスト（話し方のコツを覚えましょう）
 - ・ろう児に合った説明（ポイントをとらえた話し方）
理由→結果ではなく、結果→理由の順に話します。
 - ・ろう児がすぐに納得できるような話し方。
「暑いから上着を脱ぐ」ではなく「上着を脱ぐよ、暑いから」
 - ・あいまいな表現ではなく、より具体的に話しましょう。
「Aにする？ Bにする？」などの選択肢もわかりやすいです。
- 手話だけにこだわらない（ものを使う）
おむつを替えるときは、目を合わせた後、おむつを見せて、赤ちゃんのおなかをポンポンと叩いておむつ替えをします。
- 表情に注意したコミュニケーションの方法
 - ・うなずいて「ダメ」と言うのは「いいよ」と伝わります。
笑いながらの「ダメ」も「いいよ」と同じ意味になります。
しっかり目を合わせて、首を横に振って「ダメ」と伝えます。

●指差し（PT）を使ったコミュニケーションの方法

- ・スマホを握って離さないお子さんに
スマホを指差した後に自分（お母さん）を指さします。
次に、赤ちゃんを指さした後に好きなおもちゃを指さす。
『スマホはママの、〇〇ちゃんはクマさん』と伝えます。
- ・「トイレに行くね」だけでは赤ちゃんが不安になります。
「トイレに行って、戻るね」と指さしで伝えましょう。
- ・「お片付け」だけの手話では情報が足りません。
指さし（私、あなた、あれ、それ、あっち）を使いましょう。

生活の中で伝える場面

ろうの赤ちゃんの視界から外れるとき

「〇〇に行って戻る」ことを伝えてください。お母さんが突然いなくなって、いつ戻ってくるかわからないと不安になります。
「ミルクを作りに行って戻るね」「靴を取りに行って戻るね」

外出するとき

外出前には、必ず絵や写真、手話を使って行先を伝えましょう。
1歳を過ぎたら、誰と、どこへ、どうやって行くのか、行った先に何があるのかななども伝えます。

「家族で、おばあちゃんの家へ、車で行くよ」
「買い物に、自転車で行く。イチゴを買うよ」



めだかの活動

めだかでは、その日の流れと療育のねらいがわかるように、教室に活動案が貼ってあります。これは、お子さんの療育の内容ですが、聞こえる保護者にとっては手話の勉強でもあります。また、学校教育で手話を学んだことがないろう者の保護者にとっても、早期教育と手話に関する情報提供になっています。

めだかでは、1つのテーマを数日かけて深めていきます。

「紙」の遊びは、新聞紙や花紙など違う種類の紙を使って、切ったり、形を作ったり、水を加えて紙粘土になったり、最後は乾いたお皿へと変化します。

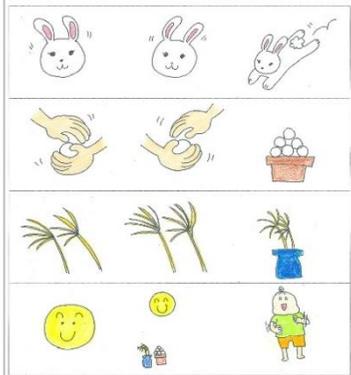
このように「遊びを深める」ことで、さまざまな概念が作られていきます。そして、遊びを通して手話の表現を知り、やがて、自分がそれを表現できるようになっていきます。

4月20日（金）		
時間	活動	ねらい
10:30	課題あそび 【新聞紙であそぼう】	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動を楽しもう ・新聞紙を段ボールに入れてみよう ・お風呂ごっこを楽しもう ・いろいろな動作を楽しもう (ひろげる・ひっぱる・やぶる) (ちぎる・ねじる・まるめる・なげる) (かきねる・ならべる・つなげる) <p>★CL/NMs (CL: かたの変化、遊びかたなど) (NMs: 量の加減、力加減の強弱など) ★指差し (場所や方向などの指差し) (/PT1・PT2・PT3/)</p>
12:00	昼食 オムツ替え・トイレ	  
13:00	課題あそび 【外であそぼう】	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動を楽しもう ・からだをたくざん動かそう ・好きな固定遊具であそぼう ・誰と一緒にあそぼうかな <p>★CL/NMs (CL: 固定遊具のかたち、遊びかたなど) (NMs: 遊ぶときの動きの強弱など) ★指差し (場所や方向などの指差し) (/PT1・PT2・PT3/)</p>
13:50	おちゃの時間 押りの会	 
<p>今週のテーマは『好きなあそびをたのしもう』です。</p>		

めだかの教材

手話リズム

おつきみ



「手話リズム」は聞こえる子どもたちが幼稚園などで楽しむ「歌」に相当します。

歌詞には、0～2歳の生活の中では使わないことばや動詞と名詞などがたくさん登場します。「すすき」「お供え」「せつぶん」「まめまき」「逃げだす」など。

せつぶん



『タン・タン・タンタンタン』
この軽快なリズムに乗って、手話独自のリズムや展開、手話の音韻(手型・動き・位置)、新しいことばを楽しみながら覚えていきます。

【歌詞イラスト】は、描かれたものを読み解く力『ビジュアル・リテラシー』を育てるはじめの一步でもあります。

視覚教材のくふう



指文字の写真が『相手から見た形』

【遊びかた】

写真に手を合わせてあそぶ



指文字の写真が『自分から見た形』

【遊びかた】

写真と同じに見えるように
自分で指文字をつくる

手指の発達に応じた遊びかたが出来る『かず・すうじ表』

動画配信のお知らせ

絵本の読み聞かせ動画を配信します！
下のバーコードをスマホで読み取ってください。

2018年度	絵本のタイトル	バーコード	パスワード
10/2	おひさまのうた		181002
9/28	お月さまのうた		180928
7/17	お星さまのうた		180717
7/4	お花のうた		180704
6/4	お虫のうた		180604
5/21	お鳥のうた		180521
4/16	お魚のうた		180416

日本手話による

絵本の読み聞かせ動画の配信

月2回、絵本の読み聞かせ動画と手話リズムを配信しています。当初、手話リズムは行事だけでしたが、子どもたちから「物語の手話リズム」のリクエストがあり、バリエーションが増えつづけています。

参考図書・論文

■ 図書

『手話を生きる ー少数言語が多数派日本語と出会うところ
でー』 齊藤道雄著、みすず書房 2016年

『ことばの力学』 白井恭弘著、岩波新書 2013年

■ 論文

『Ensuring language acquisition for deaf children: What linguists can do』 (ろう児の言語獲得を保障する ～言語学者ができること～) / Tom Humphries (トム・ハンフリーズ) ほかの共著 「Language」 アメリカ言語学会学術誌「ランゲージ」誌2014年6月号の論文 (和訳こちら→)



『Deaf children need language, not (just) speech』 (～ろう児が必要としているのは言語であって、(単なる)口話ではない～) 著者: Matthew L. Hall マサチューセッツ大学心理学部、Wyatte C. Hall ロチェスター大学の医療センター、Naomi K. Caselli ポストン大学 2019年3月13日 アメリカの学術誌「First Language」に掲載された論文

MEMO

児童発達支援事業所 明晴プレスクールめだか

〒140-0003 東京都品川区 5-2-1

電話/ 03-3790-4244

FAX/ 03-3790-4255

事業所番号 1350900229

問い合わせは下記ホームページからご連絡ください



<http://medaka.meiseigakuen.ed.jp/>

※本誌の無断転載および複製・コピーは禁じます。